

## 第5回松山市総合計画審議会議事録

日時	平成24年10月24日（水） 10:00～12:00
場所	NBF松山日銀前ビル 4階 第1会議室
出席者	最終ページ参照

### 1. 開会

矢田部会長

- ・ 第4回審議会の総括について、事務局から説明をお願いします。

### 2. 議事

#### ① 第4回審議会の総括(事務局説明)

事務局

(資料1 第4回審議会の総括)

三浦委員

- ・ 「虐待」についての発言は、他の項目にあることも知ったうえで、学校教育にもそういった視点が必要であるという意見ですので、補足で説明させていただきます。

矢田部会長

- ・ 議事②「笑顔のまちづくり」プログラム(案)について」に移ります。分野横断的なプログラムということでしたが、具体的な施策について、一定案が固まったということですので、ご説明いただきます。

事務局

(資料2-1 第6次総合計画(構成案) 説明)

(資料2-2 「笑顔のまちづくり」プログラム(案) 説明)

矢田部会長

- ・ 各委員から、横断的な視点が必要ではないかというご指摘が多くありました。3つのカテゴリーで計9つのプロジェクトが提案されています。これまでの4回の審議会の意見等を参考にして、ご提案いただいたものです。

小林委員

- ・ 資料2-2について提案があります。個別プログラムの「1. 笑顔が集まるプログラム」について、重点プロジェクトの「1 選ばれる松山をめざす「都市ブランド力向上」プロジェクト」と「2 元気な産業と人財が創り出す「経済活性化」プロジェクト」については、どちらかといえば、笑顔が「集まる」というよりも、笑顔を「創り出す」に近いのではないのでしょうか。「1」は都市ブランド戦略課が発行する「暖暖松山」や、「だんだん松山プロジェクト」など、松山の魅力を発掘、創出する意味合いが強いのではないかと思います。

## 矢田部会長

- ・ それぞれの切り口をどうまとめるかは難しいところがありますが、事務局いかがですか。

## 事務局

- ・ 文言につきましては、いろいろとご意見があるかと思いますが。「笑顔をつくる」という表現は、重点プロジェクトの「1」には合っていると思いますが、3つを総括してどのような表現にするかは、検討させていただきたいと思います。

## 矢田部会長

- ・ 「笑顔のまちづくりプログラム」は、直接基本構想に関わるものではございません。本日このあと、答申について議論の時間をもちたいと思いますので、そちらに移らせていただいて、残った時間があれば、また今の議題に戻りたいと思います。
- ・ 議事③「答申について」の議論をしていきたいと思います。これまでの審議会の中でいただいたご意見について、事務局と協議したうえで、構想に反映するもの、基本計画に反映するものを選定したうえで、骨子案と意見集という形でまとめさせていただいております。
- ・ 骨子案ということで、今は箇条書きにしておりますが、本日の議論をふまえて、最終的に文章の答申にするということで、ご理解いただきたいと思います。

## 事務局

(資料3 第6次松山市総合計画に関する答申(骨子案) 説明)

(資料4 第6次松山市総合計画に関する意見集(案) 説明)

## 矢田部会長

- ・ 資料4をご覧ください。各委員には、4回の審議会の中で熱心にご協議いただきましたので、ご意見をいただいた中で必要な案件は、全て市長への答申と併せて提出させていただきたいと思います。
- ・ 基本構想(素案)の構成に基づいて、事務局で答申の骨子案をまとめていただきました。
- ・ 項目が、「まちづくりの重要な視点について」、「将来都市像について」、「まちづくりの理念について」、「まちづくりの基本目標について」、「総合計画の推進にあたって」、5つありますので、1項目ずつご議論いただきたいと思います。
- ・ 1つめの「まちづくりの重要な視点について」は、5つの切り口でまとめられております。松山を支える人づくり、笑顔ということで、互いに尊重し合う社会、広域連携、広域化した新しい松山をどう打ち出していくのか、という切り口です。
- ・ 各ご専門のお立場から参加いただいておりますし、また、今まで議論した中で、もう少しこういったことを追加できないかということや、内容が十分でない点など、いろいろご意見もあろうかと思いますが、ここで議論いただき、最終の答申文としてまとめていきたいと思いますので、ご意見、ご質問等お願いいたします。

## 久保委員

- ・ 3ページに「アイデンティティ」、5ページに「キャリア教育」とありますが、カタカナ文字が氾濫して、それが十分みんなに理解できるかという懸念があります。
- ・ アイデンティティという言葉はここには合わないのではないのでしょうか。日本語の美しい言葉、適した言葉があるのではないかと思います。
- ・ キャリア教育について、一般に理解されているキャリアは、学歴や職歴を積み重ねるという感覚しかなかったのですが、調べてみると、「子どもの教育から全てに関係してくる、個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖、およびその過程における自己と働くことの関係付けや価値付けの累積が、キャリア教育である」という説明がなされていました。
- ・ ここにあるキャリア教育という言葉だけで、これだけのことを全て説明できるのでしょうか、また、読んだ人がわかるのでしょうか。
- ・ ソーシャルワーカーという言葉のうしろに、社会福祉士という日本語訳がつけられていましたので、同じように、誰が読んでも分かるような説明があればよいと思います。カタカナ言葉もたくさんあり、フリーターのように、ほかに適切な言葉が見つからないものもありますが、みんなが理解できるように、もう少し日本語を使っていたきたいと思います。

#### 矢田部会長

- ・ この案件はなかなか難しいので、ご専門の三浦委員に相談したいと思います。

#### 事務局

- ・ 基本構想を作成する際には、カタカナ言葉に用語解説をつける予定で、その際には三浦委員にもご相談したいと思います。これはあくまでも答申ですので、用語解説までは必要ない、という理解でよろしいでしょうか。

#### 久保委員

- ・ はい。

#### 矢田部会長

- ・ (1)から(5)まで、目を通していただいて、それぞれのご専門の立場から、欠けているもの、表現がよくないものなどがあれば、ご意見をいただけますでしょうか。

#### 三浦委員

- ・ 「はじめに」の最後に「心弾むような計画」という文言にさせていただいたことに感謝いたします。大変ありがたい言葉だと思います。
- ・ 確認ですが、骨子案ですので、文章化してまとめて、後の資料4などを添えて答申をするということよろしいでしょうか。また、パブリックコメントは、その答申について実施されるのでしょうか。それとも、それをとりまとめられて、最終の案になった時点で実施されるのでしょうか。流れについて確認させてください。

#### 事務局

- ・ 基本構想についてのパブリックコメントは、審議会と並行して実施しています。基本計画がまとまった時点で、今度は基本計画のパブリックコメントの機会を設けたいと考えています。

### 三浦委員

- ・ ありがとうございました。
- ・ 2ページの「(2)「ひとづくり」の重要性」ですが、繰り返し申し上げておりましたのは、「どんな子どもを育てたいか」という、夢のようなものを打ち出していきたいということです。
- ・ 1項目めの指摘は当たり前ですが、2項目めは、愛着が生まれ、将来の松山市を担いたいと考えるような人材、3項目めの後半は、社会に対する責任を自覚しながら、地域に貢献するなど、将来都市像の実現に向けた取組を積極的に行うような人材、とあります。これを否定するわけではありませんが、いやにちっぽけな子どもを育てるのだな、という印象を受けました。
- ・ 学校教育の目的は、世の中に適応することではなく、世の中をさらに進展させるような子どもを育てることです。5ページの(4)の1項目めには、子どもの教育に対してどのような姿勢で取り組むのか、その方向性を明らかにする必要があるというご指摘があり、これは私の指摘を受けて、このようなまとめ方をしてくださっていると思うのですが、それが結果的に、社会にとって、行政にとって都合のよい人材を育てるといった雰囲気になっているような気がします。
- ・ 「坂の上の雲のまち」を継承・発展するのであれば、松山にとどまって、松山だけを元気にしましょうと展開されるのではなく、むしろグローバルな視野を備えて、社会の発展に貢献できる自立した人材を育てるといったようなレベルの言葉を使っていたideきたいと思ひます。

### 矢田部会長

- ・ もっともなご指摘かと思ひます。松山に固執するのではなく、その兼ね合いが大切です。地域という視点と、世界という視点を併せ持った学生を育てることは、愛媛大学の憲章にもしつかり謳っておりますし、答申にも盛り込んでいきたいと思ひます。

### 鮎川委員

- ・ 今のご意見に賛成します。
- ・ 「まちづくりの理念」に対する意見で、似たようなことを申し上げました。理念はこのような形でまとめていただいております、「ひとづくりの重要性」についても工夫して表現していただいておりますが、さらに、理念として申し上げたようなことを明確に入れていただきたいと思ひます。

### 甲斐委員

- ・ 「ひとづくりの重要性」については、以前にも発言させていただきましたが、まちが人を大事にする、また、人が人を大事にできるまちであることが大事だと思ひます。今のまま

では、役に立つ人材を育てて使う、という発想が見え隠れするような表現になっていますが、それは違うと思います。

- ・ 進め方についての確認です。今日で審議会が最終回ですが、箇条書きの状態です。答申が出るということになるのでしょうか。文章になるなら、それをもう一度みんなで吟味する場が必要ではないでしょうか。

#### 矢田部会長

- ・ 今回は、ご審議いただいた内容を網羅し、総括した形の箇条書きになっています。これだけ見ると、文章として連続していないため、統一感もありません。答申文そのものは、今日の議論をもとに書き直し、31日に市長に答申しなければなりません。
- ・ 私個人も、もう一度協議する場が必要かと思いますが、再度集まって議論いただき、書き直すという時間はありません。そのため、私と副会長、事務局にご一任いただければという形で議論を進めています。ここで個別案件について議論していただければ、責任をもって文章にいたします。
- ・ 骨子案の内容は、順番に1つずつ議論していきたいと思います。「1. まちづくりの重要な視点について」についてほかにご意見ありませんでしょうか。それでは、「2. 将来都市像について」に移ります。

#### 甲斐委員

- ・ 将来都市像については、ここにある3つが間違いというわけではありませんが、「笑顔」という発想はよいが、それを体現するためのビジョンが足りないのではないか、ということ、いろいろな委員さんが心配されていたと思います。
- ・ 笑顔が重要であればあるほど、それを裏付ける具体的なビジョンや施策を打ち出す必要があるということ、強調していただきたいと思います。

#### 矢田部会長

- ・ 笑顔という切り口で、経済やその他のいろいろなことについて書いた上で、甲斐委員からご提案のあった書き方でまとめていくのが、将来都市像についてのまとめ方になるかと思っています。
- ・ それでは、「3. まちづくりの理念について」に移ります。ここには6つの項目が記されています。

#### 鮎川委員

- ・ 2項目めにある子どもの教育は、「全ての分野に波及する横断的な施策である」とありますが、子どもの教育だけではあまりにも狭すぎるのではないのでしょうか。
- ・ 子どもの教育だけが出ると、唐突な感じがしますので、ここはむしろ、未来を担う子どもがいきいきと育つようなまちづくりという発想が必要であり、教育はその中の一つだと思いますので、もう少し大きく捉えていただいた方がわかりやすいと思います。

#### 矢田部会長

- ・ 文章化するには、1つ1つの要素を盛り込みながら、的確な言葉を使わなければならないと思いますので、それを重々肝に銘じて、答申をつくっていきたいと思います。

#### 磯村委員

- ・ 観光の立場からの意見です。これまで、松山観光コンベンション協会で、誘致宣伝委員長という立場で、全国の主要都市に対して松山を売り込んできました。
- ・ 最初は、「松山国際観光温泉文化都市」というキャッチコピーをつけてセールスしていました。第5次総合計画以降、ここ数年は「坂の上の雲のまち」というキャッチフレーズで売り込んできました。さて、次はどのようなキャッチフレーズでアプローチしていこうかと考えたときに、この基本構想の中に見あたらず、また思いつきません。
- ・ 5ページの「(5)緑の映える快適なまち（環境・都市）」の中では、「観光交流都市」という言葉が出てきていますが、「文化」という言葉が、どこかでいつのまにか消え去ってしまっているような気がしてなりません。「国際観光温泉文化都市」は少し長い言葉ですが、「文化」という言葉は残していったほうがよいと思います。

#### 矢田部会長

- ・ 理念の中に「文化」というキーワードをぜひ入れてほしいというご意見です。
- ・ 現状の「まちづくりの基本理念」を読むと、文化を追加するには、もう1項目追加する必要がありますので、考えさせてください。

#### 事務局

- ・ 補足しますと、「国際観光温泉文化都市」という言葉は消えるわけではありません。法律もありますので、松山市がやめてしまうということではありません。「まちづくりの基本目標」の(5)については、「緑の映える快適なまち」という項目であるため、「観光都市」という言葉を使っているだけで、国際観光温泉文化都市がなくなるわけではありませんし、基本構想(素案)の中でも、坂の上の雲のまちづくりは継承していくこととしております。また、まちづくりの理念にも含んでいますので、なくしていくという思いはありません。

#### 甲斐委員

- ・ 「坂の上の雲」については、原作に表現されている精神を継承していくということだと思いますが、市民の多くは、「坂の上の雲」と言えばドラマのイメージで、表層的な部分が先に立つのではないのでしょうか。そこで、「ポスト坂の上の雲」も考えなければならないという話をさせていただきました。
- ・ 「坂の上の雲」という言葉の使い方には、少し注意深くなっていただきたいと思います。1つのことに囚われたまちづくりになってしまうのではないかと危惧していますので、まちづくりの理念でしっかりおさえていただきたいと思います。

#### 堀田委員

- ・ 1項目めの、「行政の姿勢を示すものとして、包括的なまちづくりの視点を」とあります。もちろん、これは松山市が主体となる計画なのですが、市民と協働、連携していこうとい

う発想がなければならぬと思います。

#### 久保委員

- ・ これは10年間の計画ですが、10年ごとに変わる理念では困ります。そこが表現されていないのではないのでしょうか。今後10年の中でどのようなまちづくりを進めるのか、ということ明記したほうがよいのではないかと思います。

#### 矢田部会長

- ・ それでは、「4. まちづくりの基本目標」に移ります。これまでも非常に多くの時間を割いてご議論いただいた、具体的項目になります。全体を通してのご意見をお願いします。

#### 三浦委員

- ・ 「(4)健全で豊かな心を育むまち(教育・文化)」についてです。教育については、いろいろ採り上げていただいているのですが、文化の視点の記述が見えません。松山市は、文学と歴史のまちといってもいいかもしれませんし、豊かな文化が育まれている誇り高いまちという表現でもよいかもしれません。「豊かさ」という視点から進展させていくのだという趣旨、あるいは方向性で、文化についての記述があるとよいと思います。
- ・ 学校教育を充実させるという点については、何となく入っているような気もしますが、学校教育も大事だということを明確に書いていただければよいと思います。
- ・ 4項目めの、社会への再貢献を図る」という表現には抵抗があります。「お年寄りの生きがいや居場所をつくる」という表現のほうがよいのではないのでしょうか。

#### 甲斐委員

- ・ 「(4)健全で豊かな心を育むまち(教育・文化)」についてですが、子どものことしか書かれていません。学びたいと思ったらいつでも学べるまちである必要があるわけで、狭い意味でのキャリア教育というだけではなく、いつでも学びができるということが大切だと思います。子ども、つまり将来を担う世代の育成に力を入れるという姿勢は打ち出しつつ、大人の教育に関する視点も入れていただきたいと思います。
- ・ 「(3)地域の魅力・活力が溢れるまち(産業・交流)」の最後から2つめの項目に、「企業研修旅行の誘致促進」という具体的な言葉が出てくるのは、表現がそろっていないと思います。

#### 矢田部会長

- ・ 文化や学びの場について、また、一般的なものと特化したものとを表す文言が混在している点について、検討したいと思います。

#### 事務局

- ・ 資料3は、基本構想(素案)に対する答申になっておりまして、今は基本構想(素案)の内容ではなく、答申の内容についてご議論いただいているところかと思っております。
- ・ 答申には、子どもの教育のことだけが書かれていますが、基本構想(素案)には、あらゆ

る世代の市民が、生涯を通じて学びを継続し、その成果を社会で活用できる環境の整備が求められるということが書かれております。答申に盛り込むということは、それに対してもっと記述が必要であるということでしょうか。

#### 甲斐委員

- ・ 基本構想（素案）で、そのようなことにも言及されていればよいということです。
- ・ 「四国唯一の50万都市である」と書かれています。50万都市には50万都市としての責任があつて、周辺市町村のなかで中枢都市としての役割を担うということを打ち出していくということだと思いますので、答申の文章を書くときには、松山が一人勝ちするような表現にならないようにしていただきたいと思います。

#### 磯村委員

- ・ 重複するかもしれませんが、「企業研修旅行の誘致促進」は具体的すぎるし、また、必要なのはこれだけではありませんので、具体的に謳わないほうがよいと思います。重点的に取り組んでいるのは事実ですが、将来10年間にわたってずっと重点になるかどうかはわかりません。もっと幅広く松山に来ていただき、交流人口を増やしていくのだということを謳った方がよいと思います。
- ・ 「瀬戸内海航路を活かす」という点については、航路だけを活かすのではなく、瀬戸内海全体を活性化させ、その中心都市が松山である、という表現にしたほうがよいのではないのでしょうか。

#### 堀田委員

- ・ 「(6)市民とつくる自立したまち（自治・行政）」の2項目めについて、「住民の参加意識を高める」とありますが、参加をするではなく、自分のこととして捉える意識を高めるという記述にしていきたいと思います。参加や協力という表現では、市が用意したものに来てください、と見えますので、「自分ごととして捉える」という記述にしていきたいと思います。

#### 矢田部会長

- ・ 市民の自発性、自立性に関する表現が必要なのだと思います。

#### 吉田副会長

- ・ 「(5)緑の映える快適なまち（環境・都市）」の4項目めについて、「環境学習だけでなく、いろいろな関連事業と連携して実践させていく」というところは、文章としてまとめる時に、何を実践させるのかという方向性を含めた記述が必要かと感じました。

#### 矢田部会長

- ・ 確かに、言いたいことはわかりますが、少し分かりにくいですね。これだけのものを盛り込みながら、脈絡をつけて、格調高い文章に仕上げるのは大変です。



### 吉井委員

- ・ (1)から(5)までありますが、先ほどからみなさんのご意見をうかがっていても(4)への関心が高く、健康・福祉も大事ですが、教育・文化はもっと大事ではないかと思います。可能であれば順序を考え直していただきたいと思います。
- ・ 個人的には教育・文化、産業・交流を最初を書くべきではないかと思います。

### 矢田部会長

- ・ 基本目標の並び順については議論しましたか。

### 事務局

- ・ 特に議論していません。最初書いてあるから優先順位が高いというわけではありません。
- ・ 順番についてはご議論いただければと思いますが、現状は市民意識調査のなかでの重要度の高さの順番で、健康・福祉、安全・安心、産業・交流という順で並べており、これまでの審議会でも、その点は以前の審議会でご説明させていただきました。
- ・ 各分野のご専門の方にご参加いただいているので、ご自分の分野は後ろでいい、と言われる方は少ないのではないかと思います。審議会として、これを最初にしたほうがよいというご意見があれば、答申に反映していきたいと思います。

### 矢田部会長

- ・ 一番骨格部分の議論が足りなかったかもしれません。

### 吉井委員

- ・ 3ページには、「子どもの教育は全ての分野に波及する横断的な施策である」と書かれています。ここには修正意見もございましたが、もしこれが正しいとすれば、横断的な施策である教育を先にすべきではないでしょうか。

### 矢田部会長

- ・ 委員は様々な分野からご参加いただいていますし、キャッチフレーズを健康福祉都市にするのか、教育文化都市にするのかという話にもなります。

### 鮎川委員

- ・ 子どもが「育つ」と、「育てる」とは別であると捉えています。子どもが「育つ」という場合は、分野横断的になり、安全・安心も、福祉も、文化も、環境も入ると思います。そのように考えてこうしてほしいというお願いをさせていただいたわけで、この順番でも矛盾はしていないと思います。

### 矢田部会長

- ・ 順番を考えればどうかというご提案ですが、みなさまどうでしょうか。強くサポートするご意見はありますか。このままでよいというご意見が大勢でしょうか。
- ・ 吉井委員のご提案は、審議会の関心が教育・文化にあるのではないかというものです。事

務局の説明は、市民意識調査での順番ということで、市民からの視点になりますし、市民意識調査が全て正しいともいえないので、審議会場で強いご意見があれば入れ替えてもいいと思いますが、このままでよろしいでしょうか。

(意見なし)

- ・ 吉井委員、特に強いご意見はありませんし、また順番を変えることは大変だと思います。要は市民意識調査に基づいている、ということです。

#### 吉井委員

- ・ 一般的に、社会調査の結果は回答者のサンプルに依存し、高齢化社会ですから、当然健康・福祉に関する回答が多くなります。住民の多くが高齢者だからそれでいいということかもしれませんが、松山市の特徴を出したいということであれば、住民の意見を100%反映する必要はないと思います。特に若い人は声を上げないし、人数も少ないので、声なき意見に目を向ける必要があるのではないかと思います。

#### 矢田部記長

- ・ 「坂の上の雲」は教育文化都市につながるもので、個人的には教育文化都市がいいなとも思います。みなさんいかがでしょうか。

(意見なし)

- ・ 特にご意見がありませんので、吉井委員、よろしいでしょうか。

#### 磯村委員

- ・ 第5次の基本構想の体系をみると、まちづくりの基本理念は「坂の上の雲を目指して」としており、また、「憧れ誇り日本一のまち松山」という大命題がついていて、観光についても、「物語のある観光日本一のまちづくり」という1つのビジョンがあります。
- ・ 第6次は比較的現実的な内容になっており、その点で少しギャップがあるのかなと思います。

#### 矢田部会長

- ・ 確かに「笑顔」で束ねられて、ソフトムードの構想になっています。基本的には第5次を踏襲して、そのプラスアルファとして、一生懸命がんばってまちをつくったから、今度は笑顔が絶えないまちにしましょう、笑顔日本一のまちづくりをしましょう、という考え方は悪くはないと思います。確かに威勢のいい方がいいかもしれませんが、いかがでしょうか。

#### 久保委員

- ・ インパクトがないと思います。この10年間の計画の一番の命題は、市長に立たれた方が、

松山市をどのような方向に持っていくか、ということではないでしょうか。また、その根本として、住民になにができるか、住民になにをしてもらおうかということもあると思います。

- ・ 外から転入してきたものとしては、第5次総合計画では、「坂の上の雲」を用いて、偉大な人物を輩出し、海、山、川、陸、海、空そろった観光都市ということを前面に出されて、住民を引っ張って行かれた感覚があります。それを踏襲されるのか、それとも、それから発展させて、この10年どのような方向に持っていくのか、についてもう少しインパクトを与えるような表現があればよいと思います。
- ・ 「(6)市民とつくる自立したまち(自治・行政)」に関連して、先ほどの住民の参加意識のご意見とは反対の意見ですが、松山市が住民の間でどのように接着剂的な役割を果たすかということかと思えます。市民が集まって何かをするときに協力します、自助努力に対してこのような形で支援します、という役割を担うのが行政だと思えます。そのような視点に立ってみれば、住民参加を促すということも大切です。また、もう少し行政として協力的に、みなさんへの接着剂的な役割を果たしていき、そうすることによって松山市を発展させ、ひいてはみなさんの感謝あふれる笑顔のあるまちづくりを目指す、という考え方のほうがよいと思います。
- ・ (6)については、松山市では、市長をはじめ行政に携わるみなさんが努力をされているので、それを活用してください、という表現もひとつ入れていただきたいと思えます。

#### 矢田部会長

- ・ 今ご指摘があった案件は、表現が少し違うだけで、要は市民にきちんと参加していただかなければならないので、松山市として環境を整備するという点を全面に出すか、あるいは松山市は裏方で動いていて、実質は「住民がみごとに生き生き動いている」ということが書ければよいのですが、表現を考えてみます。
- ・ 書き方としては、第5次総合計画を踏襲して、次の10年はこうあればいいなというものがある、だからキャッチフレーズとしては、ある程度踏襲しつつ、それにプラスアルファということかと思えます。あまり小さく収まるというものでもありませんし、「笑顔」も小さいものではなく、人間の一番本質的な幸せ感を表すものです。それを我々が認識できるまちづくりが大事だと思えます。
- ・ 発展期には、日本一、世界一だと鼓舞できますが、それが幸せ感とイコールかといえ、必ずしもそうではありません。そのような考え方もありますので、磯村委員のご意見を十分肝に銘じながら書かせていただきます。

#### 磯村委員

- ・ 新しい市長に変わられて、市民に発信する言葉なので、力強さを持っていただき、それががんばっていただきたいと思えます。もっと市民がプッシュするのだ、市長を盛り上げていこう、という言葉に代えていってはどうでしょうか。「はじめに」には「夢と希望と志を持って」という表現がありますが、「どれが志だ」ということになったのでは、市長の力強さが表にでないと思えます。
- ・ 「笑顔」については、都市ブランドの中で、「だんだん松山プロジェクト」が進んでいる

ので、それがフォローアップしてくる。これを推進するのはいいことですが、特段の発信力をもつ言葉が必要だと思います。

#### 鮎川委員

- ・ 第1回審議会での意見をご検討いただいた上での骨子案であり、事務局でもご検討はされているということを申し添えます。

#### 小林委員

- ・ 5ページの「(5)緑の映える快適なまち（環境・都市）」の一番下の項目には、「福島第一原子力発電所事故の発生を機に、電力不足が課題となっているため、節電の観点が必要である」とあります。そこまでは緑に配慮した項目が並んでいるのに、いきなり原発事故と結びつけるのであれば、全国的に問題になっているのは電力不足ではなく、放射能による健康問題だと思います。原子力発電所の事故と結びつけるのであれば、安全・安心のほうに組み込むべきではないでしょうか。

#### 事務局

- ・ 補足させていただきます。審議会の中でのご意見として、この項目に節電の観点が必要であるというご意見をいただいたため、ここに書かせていただいています。安全・安心に関していただいたご意見は、安全・安心に書いています。書き方に問題があるようでしたら、検討します。
- ・ もう一つ補足させていただきますが、資料2-1は「笑顔のまちづくり」プログラムの位置づけが分かるよう、当初の構成案を改めてお示ししたものです。特にまちづくりの理念については、多くのご意見をいただいています。今回の答申に基づいて修正を加える可能性もありますのでご理解いただければと思います。

#### 矢田部会長

- ・ 他にご意見、ご質問があればお願いします。

#### 高市委員

- ・ 3ページの「2. 将来都市像について」には、「市民が「私のまちはこんなまち」だと一目でイメージできるように、メッセージ性も含め、表現にさらに磨きをかける」と書かれています。ここを子ども目線というか、みんなに分かるという観点で、私が考えていることを述べたいと思います。
- ・ 松山の都市イメージを向上するための取り組みをされていますが、香川県がうどん県に改名したことのほか、最近は今治市の名前をよく聞きます。ゆるキャラのバリィさんは全国区で、人気投票も1位を走っています。また、B級グルメの焼豚玉子飯は全国3位です。
- ・ かつての今治市のイメージは造船だったと思いますが、今の段階では、残念ながら松山市のイメージは今治市に比べて弱いと思います。
- ・ 松山市に当てはめてみれば、歴史的観光資源としての松山城、道後温泉があります。これからの松山市の将来像を考えるにあたって、これらのイメージは強いのですが、新しいイ

メージも必要ではないでしょうか。

- ・ 3日前の新聞で見たのですが、松山市の職員の方が、大学で松山市の都市イメージを向上するという内容の講演をされていました。都市のイメージや認知度をあげるのは難しそうだというお話でした。そこで私が気に入ったのは、オール松山、オール愛媛でやろう、行政だけ、市民だけではなく、みんなでやるということが将来的に必要なではないかというお話でした。
- ・ この答申にも、オール松山や、みんなでやってみましょうという言葉があれば面白いと思いますので、提案させていただきます。

#### 矢田部会長

- ・ どこに入れるのか、検討が必要ですね。ありがとうございます。

#### 甲斐委員

- ・ 「(5)緑の映える快適なまち（環境・都市）」の「美しい観光交流都市を目指す」に含まれるのだと思いますが、以前、住宅等を含めた建築物のお話をさせていただきました。都市景観を形成する建築物がまちの雰囲気左右するので、まちなみや都市景観を維持することに加えて、積極的につくっていくという支援ができればいいということを申し上げたつもりでしたので、その点も答申の中に一言含めていただけるとありがたいと思います。

#### 矢田部会長

- ・ 松山市では具体的施策を実施していますか。

#### 甲斐委員

- ・ 「都市景観賞」があります。また、エコ住宅関連のものは個別にあると思います。

#### 事務局

- ・ 景観条例もあります。

#### 甲斐委員

- ・ 榎町など、計画区域も設定されていますね。

#### 事務局

- ・ 市役所前の榎町や道後温泉周辺が景観計画区域に指定されており、景観法に基づいて条例化もしています。また、屋外広告物を計画に沿って更新する場合や、屋上の景観配慮などに取り組む場合は、支援制度もあります。
- ・ 都市景観については、今後取り組んでいかなければならない分野のひとつだと思います。

#### 矢田部会長

- ・ 他にご意見はありますか。

### 吉井委員

- ・ 4ページの「(3)地域の魅力・活力が溢れるまち（産業・交流）」に、最初の項目に含まれるかもしれませんが、「域内の移動コストの低減」を入れていただきたいと思います。一番最後の項目にある、観光産業の振興に向けた広域交通網のアクセス向上では、経済学的に言えば、松山市の経済は沈下していきます。広域交通網のコストを下げることも大事ですが、それ以上に、域内の移動コスト低減で経済が活性化しますので、ぜひここに記載していただきたいと思います。

### 矢田部会長

- ・ 具体的施策としてはどのようなものが考えられますか。

### 吉井委員

- ・ 気にかかったのは、広域交通網のアクセス向上という文言があるのに、域内のアクセス向上という文言がないことです。域内の移動コストが高くなって、広域の移動コストが安くなると、観光などではプラスかもしれませんが、経済的にはストロー効果で松山の経済が沈下するということになります。1項目めに含まれているのかもしれませんが、産業の活力を上げるためには、域内の移動コストや交通のアクセス性の向上を図る必要があると思います。

### 矢田部会長

- ・ それでは、最後の「5.総合計画の推進にあたって」に移ります。ここには、縦割りではなく、分野横断的な施策が必要という内容だけが書かれていますが、ご意見はありますか。しょうか。

(意見なし)

- ・ 本日は、これまでのみなさまのご意見を、答申の骨子案として、箇条書きにしてご提示いたしました。また、これについて、様々なご意見をいただきました。これをもとに、これから基本構想（素案）に対する答申を書き上げるという中で、全体を通して力強さも是非いれてほしいとのご意見のほか、様々な貴重なご意見をいただきました。
- ・ 時間のなかで、5回もの審議会を開かせていただき、非常に活発なご議論をいただきました。本日のご意見を踏まえて、31日に答申させていただきたいと思います。それでは、これで答申についての議事を終了させていただきます。
- ・ 答申文の作成については、本来であれば、本日のご意見の出方を見ても、あと何回も議論させていただかないと着地点に至るのは難しいと思われませんが、時間の関係上ご容赦いただきたいと思います。また、参考資料に出されたご意見は、各界を代表するみなさまからいただいたもので、答申に必要な議論の骨子はできていると考えます。
- ・ そこで、私と副会長とで答申文を作成して、答申とさせていただきたいと思いますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

(異議なし)

- それでは、この後は正・副会長に一任していただきたく、よろしく願いいたします。私と吉田副会長から、市長に答申書を提出します。なお、答申書は追加意見をいただくようにはなりません、事前にみなさまの目に触れるようにさせていただきます。
- 最後になりますが、これまで審議にご協力いただき、ありがとうございます。7月30日に市長から諮問を受け、5回にわたって非常に密度の濃い審議会を開催させていただきました。委員のみなさまには、ご多忙の中ご出席いただき、また貴重なご意見をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。みなさまから頂いたご意見をしっかりと反映し、市長に答申したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- 会長として十分な会議運営ができなかったことは反省し、また、みなさまにご協力いただいたことを厚くお礼申し上げます。
- 吉田副会長、一言お願いいたします。

#### 吉田副会長

- 先ほど矢田部会長からもお話がありましたが、この7月から、各2時間5回に及び、計10時間、それぞれ専門のお立場からのご意見ご指導があり、また公募やNPO法人の代表の方も含めて、活発なご意見をいただきました。これらの成果を次の10年の市政に反映させていくことが、松山市の仕事だと思っています。
- 今後10年に向けて、真摯にいろんなご意見を討議しながら進めていった3か月間を無駄にしないように、このあとも矢田部会長をサポートして、31日に市長に答申します。意見集も事務局でつくっていただきましたので、いろんなご意見を市長に申し述べて、単なる答申だけではなく、意見集も大事な今後の10年間の資料としてお受け取りいただきたいと申して参ります。委員の皆様、本当にお疲れさまでした。

### 3. 連絡事項

#### 事務局

(事務局説明)

#### 4. 総合政策部長あいさつ

- 委員の皆様方には、ご多用の中、ご出席を賜りますとともに、平素から、市政の推進に格別のご理解・ご協力を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。
- 今後10年間の市政運営の指針となります、第6次松山市総合計画基本構想に対しまして、矢田部会長をはじめ、各委員の皆様方には、ご多用の中、熱心に審議を賜りましたことに、重ねてお礼申し上げる次第でございます。
- 本市におきましては、地方分権が進展する中で、少子高齢化の進行をはじめ、安心・安全のまちづくり、教育・環境の問題、さらには、景気の低迷に伴いまして、厳しい行財政運営を強いられるなど、将来に向けて、多くの課題を抱えております。これまで、委員の皆様におかれましては、専門的な見地や、貴重な経験などに基づいて、本市の将来を見据えた前向きなご意見、ご提案をたくさんいただいたところであり、これらの趣旨を十分尊重

いたしまして、第6次松山市総合計画の策定を進めるとともに、各事業展開に反映するなど、新たな時代に向けたまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

- ・ 委員の皆様方におかれましては、今後とも本市の市政運営に格別のご協力、ご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、委員の皆様方のご健勝と、今後一層のご活躍を祈念いたしまして、簡単ではございますが、閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

## 5. 閉会

以上



第5回松山市総合計画審議会委員名簿 出席者名簿

所属等	氏名
まつやま子ども育成会議 会長	鮎川 恭三
松山観光コンベンション協会 評議員	磯村 良幸
松山市消防団 副団長	井戸 善昭
松山大学法学部 准教授	甲斐 朋香
公 募	久保 眞美子
公 募	小林 佳貴
公 募	高市 祐次
公 募	竹田 法俊
松山市認定農業者協議会 会長	竹村 孝
特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ 代表理事	堀田 真奈
愛媛大学教育学部 学部長	三浦 和尚
愛媛大学副学長	矢田部 龍一
愛媛大学大学院理工学研究科 教授	吉井 稔雄
特定非営利活動法人ふれあいエコクラブ 理事長	吉田 啓二